

ホームシアター用5.1chスピーカシステム

NS-P510

取扱説明書

このたびはヤマハNS-P510ホームシアター用5.1chスピーカシステムをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。アドバンスドYST(ヤマハ・アドバンスドアクティブ サーボ テクノロジー)方式によるすぐれたサウンドを存分にお楽しみください。

ご使用の前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになった後は保証書と共に大切に保管してください。このNS-P510はメイン、エフェクト、センター用のNS-10MM5台と、スーパーウーファ(YST-SW45)からなるスピーカシステムです。



保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などの記入がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合、実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

ご使用の前に必ずお読みください。

目次

安全上のご注意	2
ご使用上の注意	4
設置について	5
接続のしかた	8
各部の名称とはたらき(YST-SW45).....	12
音量バランスの調節	13
故障かなと思ったら	14
仕様	15
ヤマハホットラインサービスネットワーク	16

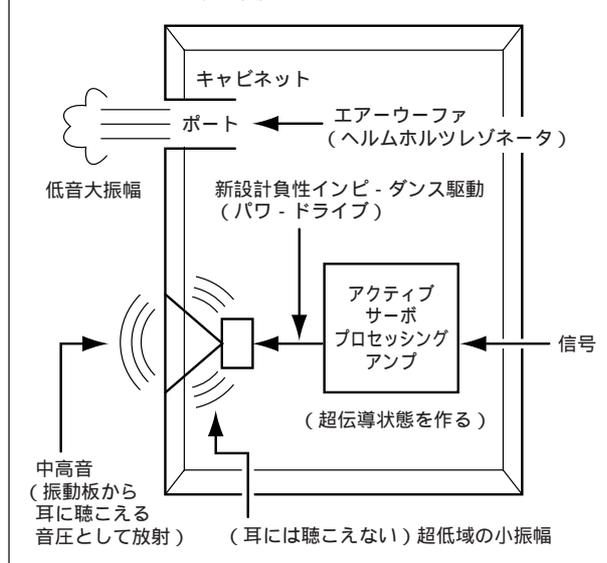
アドバンスド Advanced YST

1988年、ヤマハは独自のYST方式により良質でパワフルな低音域の再生を可能にするスピーカシステムを世に送り出しました。この方式はアンプとスピーカをダイレクトに近い状態で電氣的に接続することでアンプの動作を正確にスピーカに伝え、かつスピーカの動作をコントロールすることができます。

さらに負性インピーダンスコンバータ、N.I.C(Negative Impedance Converter)によりスピーカユニットがきちんとコントロールされるので、スピーカキャビネットの容積とポートとの間で起こる空気共振を高めることが可能になり、通常のパスレフ方式のスピーカユニットよりも大きな共振エネルギー(エアウーファ)が生み出し可能となります。これにより従来不可能であった、小さなキャビネットから、より低い音まで再生することが可能となりました。最初にYST方式を提案し、このテクノロジーを使ったスピーカシステムを世に送り出して10年、ここに新しくヤマハが開発しましたAdvanced YSTは数々の改良を従来のYSTに加え、アンプとスピーカの接続をより理想的なレベルにするものです。

スピーカはアンプに比べて小信号入力時と大信号入力時で動作が大きく変化します。このためアンプ側から見たスピーカの抵抗値(動的インピーダンス)も動作状態によって変化します。そこでスピーカの動的インピーダンスに応じてN.I.Cを変化させればより理想的なYSTになると考え、数々の試作実験を繰り返した結果、新設計「Advanced Negative Impedance Converter=A.N.I.C.」回路を開発することに成功しました。これにより従来のYSTに比べて、より低い周波数帯域での最大音圧を向上させ、最新のデジタルサラウンドの重低音を鳴らしきる超低音域再生が実現可能になりました。さらに、このAdvanced YSTはシステムの最適化設定が可能であるため、将来への発展が期待できる「進化するYST」とも言えます。

Advanced YST原理図



安全上のご注意 (安全に正しくお使いいただくために)

ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。またお読みになったあと、いつでも見られる所に必ず保存してください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例



△ 記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。



⊘ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。



● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



NS-10MM:



機器に水が入ったり、ぬらさないようご注意ください。



風呂場で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



スピーカコードは必ず固定してください。コードを足や手に引っかけ、スピーカが破損する原因となることがあります。また、壁に掛けて使用している場合、落下などでけがをすることがあります。



ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



本機の重量は1.5kgあります。付属のすべり止めテープを使用せずにそのままテレビの上に置かないでください。



設置後は必ず安全性を確認してください。またその後、定期的に落下の可能性がないか安全点検を実施してください。設置箇所、設置方法の不備による事故などの責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。



本機は1台の重量が1.5kgありますので、薄いベニヤ板の壁や柔らかい壁には取り付けしないでください。木ネジが抜けて本機が落下しますと、けがや本機の破損の原因となります。



壁に取り付ける場合、くぎなどの抜けやすいものは絶対に使用しないでください。長時間の使用や振動でくぎが抜けて本機が落下しますと、けがや本機の破損の原因となります。



ブラケットを使用して本機を壁や天井に取り付ける場合は、必ず指定されたスピーカブラケット(別売:SPM-5)を使用してください。



取り付け後は必ず安全性を確認してください。またその後、定期的に落下の可能性がないか安全点検を実施してください。取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故などの責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

YST-SW45:



本スピーカシステムを使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続したり、表示された電源電圧交流100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



電源コードの上に重いものをのせたり、コードが下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。



機器の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

	<p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p>	  <p>万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。</p>
	<p>電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>	  <p>万一、機器を落としたり、損傷した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
 	<p>内部に万一水や異物が入った場合は、まず電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>	

 <h2>注意</h2>	<p>この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。</p>
	 <p>接続する場合は、この取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。</p>
	 <p>電源プラグを接続する前には音量(ボリューム)を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。</p>
	 <p>ユニットをあけたり、分解しないでください。故障の原因になります。修理が必要な場合は、お買い上げ店にご相談ください。</p>
	 <p>旅行などで長期間ご使用にならないときは、安全のため必ずYST-SW45の電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。</p>
	 <p>1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。機器の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行くと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。</p>
	 <p>YST-SW45の電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず電源プラグを持って抜いてください。</p>
	 <p>移動させる場合は、YST-SW45の主電源を切ってから電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p>

ご使用上の注意

ご使用になる前に、下記の注意事項を必ずお読みください。

本体のつまみ類に無理な力を加えたり、キャビネットに重い物をのせないでください。

テストディスクや電子楽器の信号、極端に歪んだ信号を大きな音で鳴らさないでください。スピーカの破損の原因となります。

本システムは防磁設計となっていますがコンピュータのモニターやテレビの近くに設置すると、画像が歪むことがあります。そのような場合は、離してご使用ください。

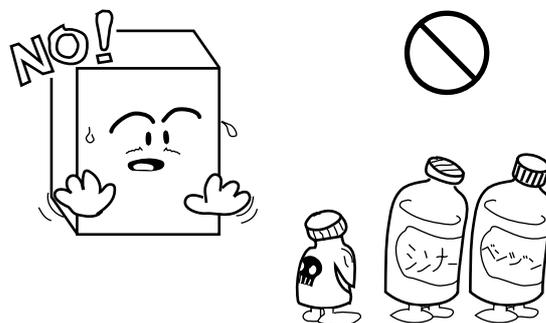
故障と思われるときはすぐにスーパーウーファYST-SW45の電源プラグをコンセントから抜いてください。

フロッピーディスクやカセットテープなどの磁気媒体をスピーカの近くに置かないでください。データが破損することがあります。

お手入れには

ふつうの汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。汚れがひどいときは、水で薄めた洗剤を布にふくませ、よくしぼって拭き取ってください。そのあと、乾いた布で仕上げてください。

ベンジン、シンナーなどで拭いたりすると、変質したり、塗料が剥げることがありますので使用しないでください。また、接点復活剤はご使用にならないでください。



設置について

本スピーカシステムは、メイン・エフェクト・センター・スーパーウーファの合計6台のスピーカで構成されています。それぞれのスピーカは、通常聴く位置(視聴ポジション)から見て下図のように設置すると最も効果的な音場が得られるように設計されています。

それぞれのスピーカの設置位置は...

メインスピーカ(NS-10MM)
テレビの左右に設置します。
高さは、画面のセンターより
下に設置します。

センタースピーカ(NS-10MM)
画面中央の上(または下)に設置
します。

エフェクトスピーカ(NS-10MM)
視聴ポジションより後方に設置し
ます。

スーパーウーファ(YST-SW45)
メインスピーカの左右どちらかの
外側に設置します。

お願い: 本機は全て防磁型設計とな
っておりますが、万が一テレビ
の近くでご使用になり色ムラ
などが生じるときは、テレビ
とスピーカの距離を離してご
使用ください。

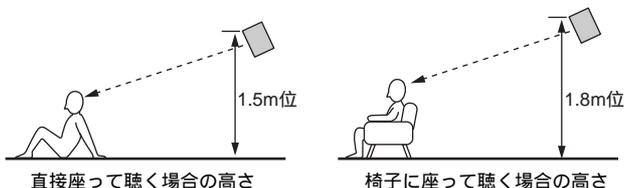
メインスピーカ(NS-10MM)

従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカをリスニングポジションから等距離に設置します。テレビをはさんで設置する場合は、左右のスピーカとテレビの距離を同じにします。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの両脇に設置してください。

エフェクトスピーカ(NS-10MM)

上図の配置位置のようにメインスピーカより左右の間隔を開けた後方斜めに配置し、スピーカをリスニングポイントに向けてください。

スピーカの高さは床に直接座って聴く場合床から1.5m位、椅子に座って聴く場合1.8m位が適当です。

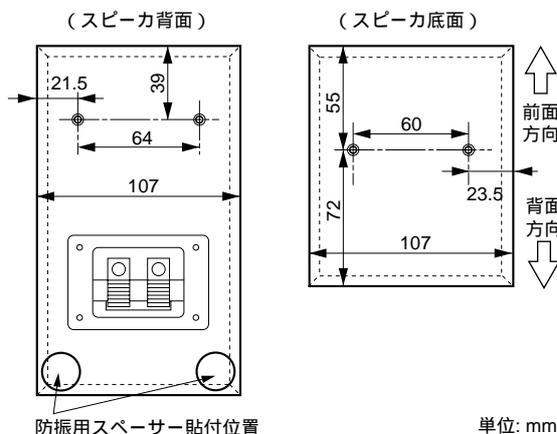


直接座って聴く場合の高さ

椅子に座って聴く場合の高さ

スピーカ背面にスピーカブラケット(取付金具)を取り付ける為のネジ穴(2箇所)があります。付属のスピーカブラケット(取付金具)を取り付けることにより、壁にかけて使用することもできます。

底面にあるネジ穴(直径4mm、ネジ間隔60mm)は別売のスピーカスタンド(SPS-10MM)専用です。背面のネジとはネジ間隔が異なりますのでご注意ください。



ご注意

NS-10MMは1.5kgの重量がありますので、薄いベニヤ板の壁や柔らかい壁などには取り付けないでください。木ネジが抜けてスピーカ本体の落下による怪我やスピーカ破損の原因になります。

釘などの抜けやすいものは使用しないでください。長時間の使用や振動で抜けることがあります。

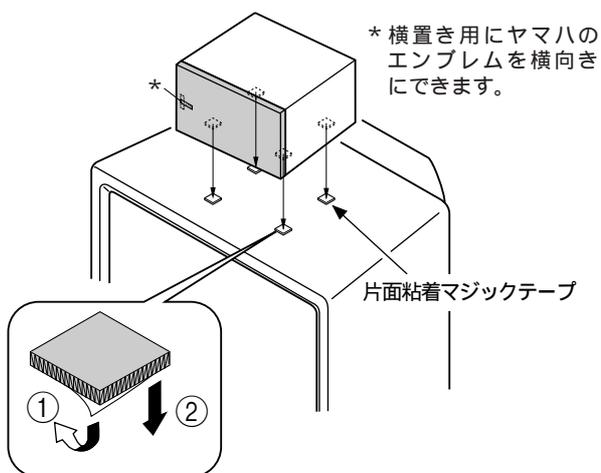
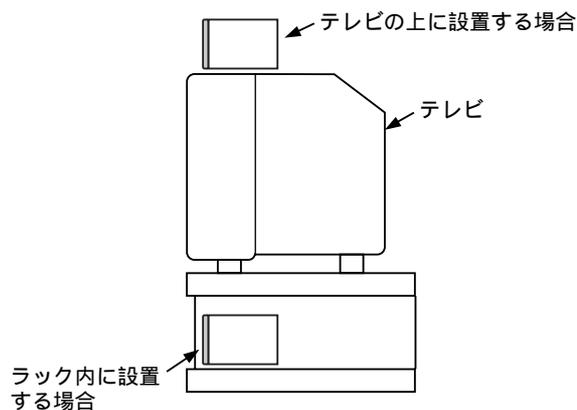
付属のスペーサー(防振用)は、壁等に掛けて使用する場合、スピーカ背面(下側)に貼ってご使用ください。

センタースピーカ(NS-10MM)

テレビを設置している場合は、テレビ画面とスピーカの前後を揃え、テレビの下または上など、できるだけテレビ画面に近いところに設置してください。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの下中央に設置してください。

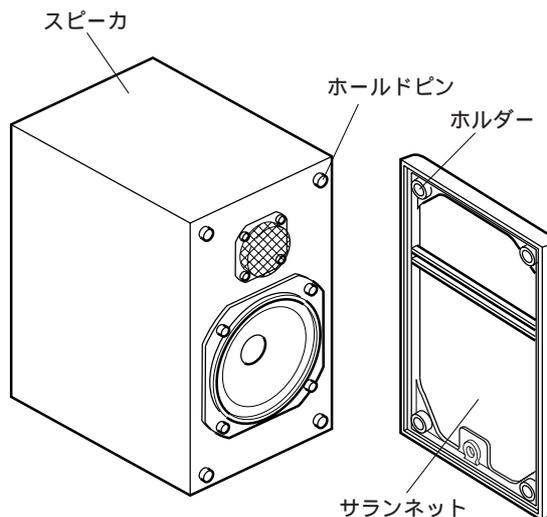
テレビの上または下に設置する場合

テレビの上に設置する場合は、必ず付属のマジックテープ(4個)を図のようにセンタースピーカ底面とテレビの上面に貼り、固定してください。



サラネット

サラネットは、はめ込み式で取り付けられています。取り外す場合は、サラネットの4隅を手前に引くと外れます。取り付けは、サラネット裏側ホルダーと本体側ホールドピンを合わせて、押し込みます。(サラネットの布部分は押さえないでください。)



ご注意

サラネットを外した状態で、スピーカユニットに手を触れたり、工具などで無理な力を加えないでください。音が歪む原因となります。

スピーカの振動板には手を触れたり、ショックを与えないでください。故障の原因となります。

本機は、防磁型設計となっておりますが、万が一テレビの近くでご使用になり色ムラなどが生じるときは、テレビとスピーカの距離を離してご使用ください。

スーパーウーファ(YST-SW45)

メインスピーカの左右どちらかの外側に設置します。音が打ち消し合うことを避けるため、少し内側に向けて設置してください。(右の参考図をご覧ください。)

低音の聴こえ方は、スピーカの設置位置や視聴ポジションによって変化します。位置をいろいろ変えてみて試聴してみてください。

スーパーウーファ設置上の注意

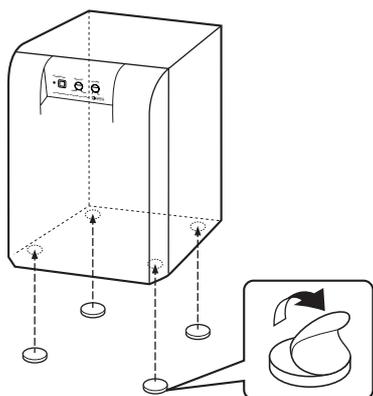
スーパーウーファは縦 / 横どちらの向きでも設置できます。本体前面および背面を下にして設置はできません。

スーパーウーファはパワーアンプを内蔵していますので、背面からの放熱を妨げないよう、壁から10cm以上離して設置してください。

大音量で聴くと、家具や窓ガラスが共振したり、スーパーウーファ自体がビリついたりすることがあります。このような場合には、少し音量を下げてください。共振防止には厚手のカーテンなどを使用すると、吸音するので有効的です。また設置位置が共振作用に大きく影響していますので、設置位置を変えてみるのも共振防止になります。

パッドの取付け

設置したとき振動などでスーパーウーファが動く場合は付属のパッドを底面4ヶ所へ取付けてください。



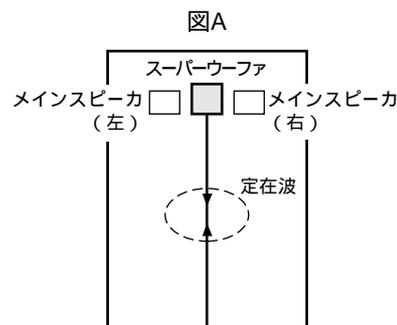
参考

超低音域は

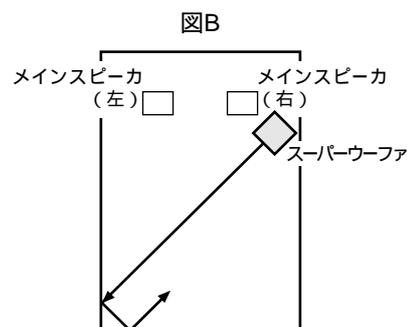
音楽信号の超低音成分は、波長が長いため、人間の耳ではあまり方向感覚がなく、無指向性に近い特性になります。したがって超低音域ではステレオ感もなくなるため、スーパーウーファは1台でも超低音域再生の効果は得られます。

セッティング時の向きは

図Aのように正面に向けて設置すると、壁で反射した音がスピーカから出てきた音とぶつかり、打ち消し合ってしまう聴こえにくいことがあります。これは部屋の中にできる定在波の影響です。これを避けるため、スーパーウーファは図Bのように斜めに設置すると効果的です。



定在波の影響で低音が聞こえにくくなる



スーパーウーファを斜めに設置した例

接続のしかた

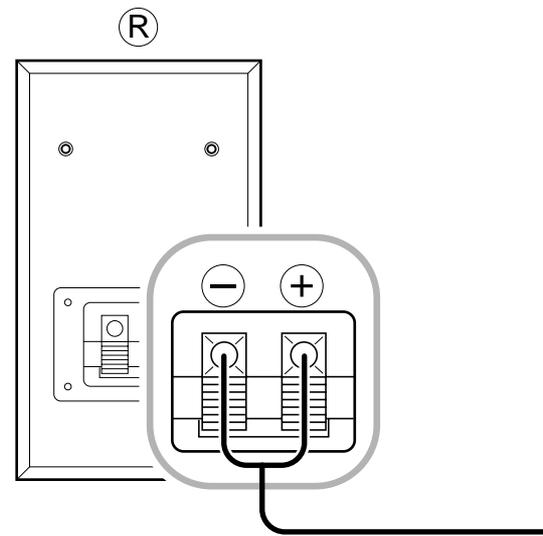
接続は必ず各機器の電源を切ってから行ってください。

接続する機器によって接続方法や端子名称が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

アンプによっては端子の色が異なることがあります。その場合は、極性(+、-)を確認して接続してください。極性を間違えて接続した場合、不自然な再生音になるばかりでなく、故障の原因となりますので注意してください。

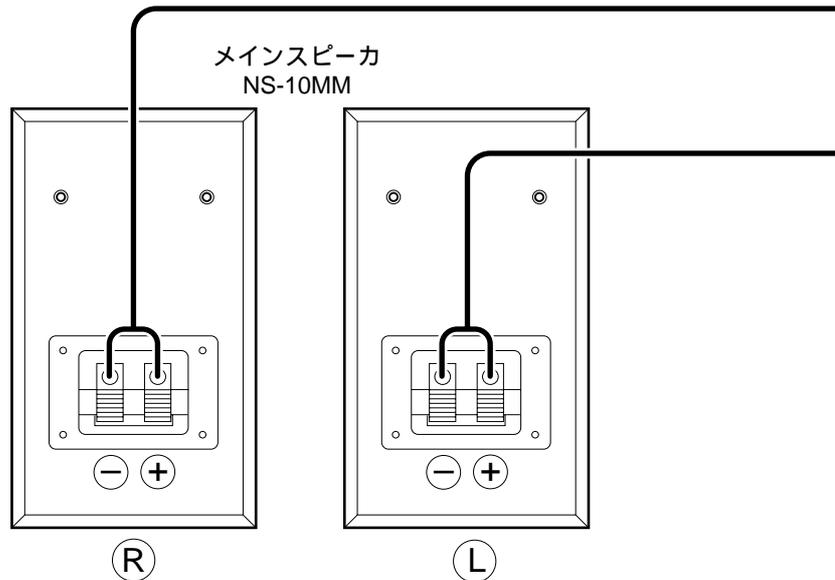
接続が終わったら、正しく配線されているか、もう一度確かめてください。

エフェクトスピーカ
NS-10MM



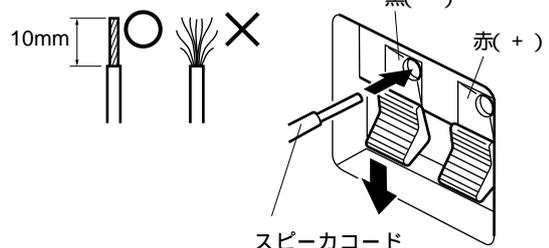
接続1

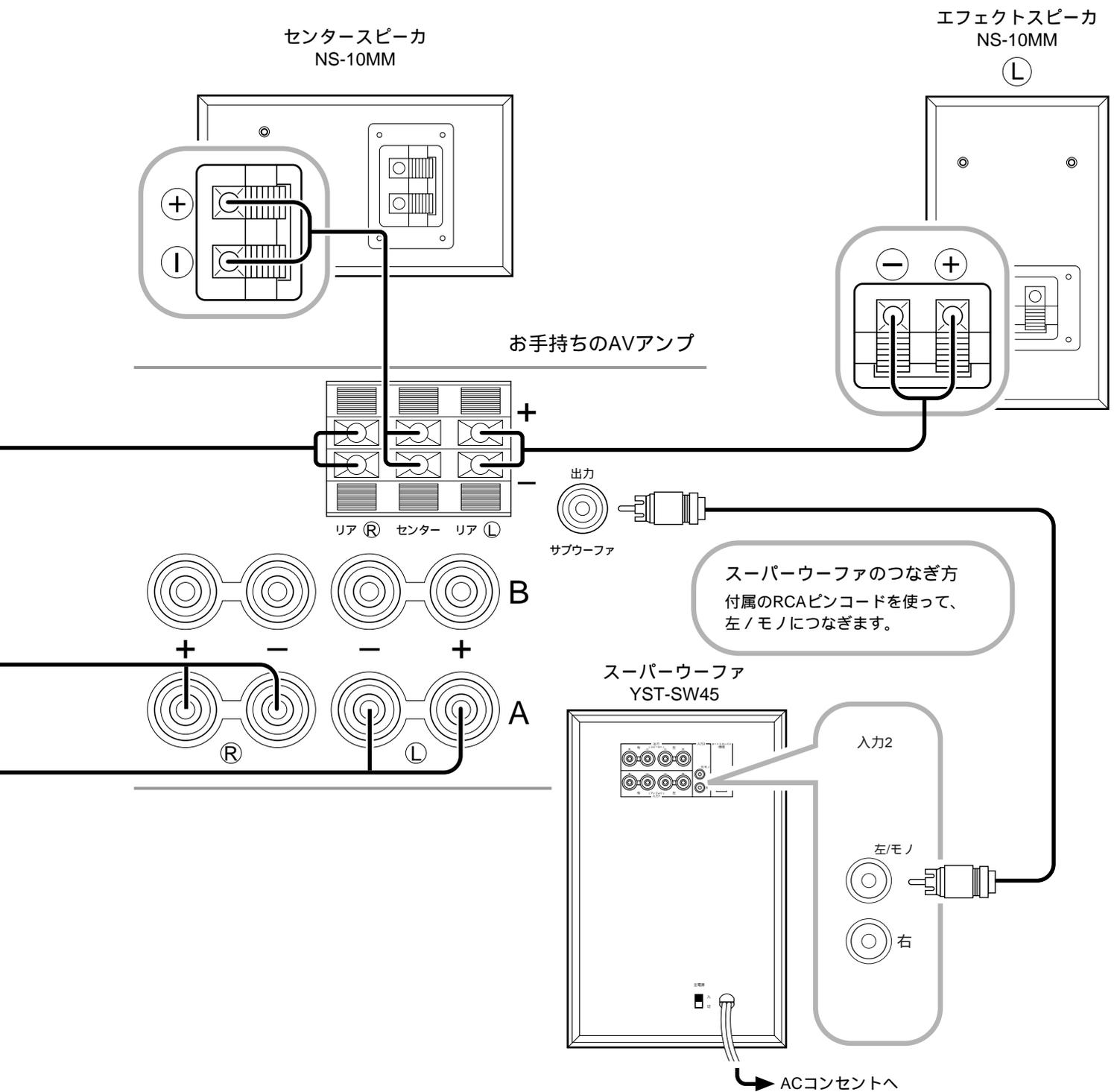
AVアンプにサブウーファ端子がある場合



スピーカコードの接続

- 1) スピーカコード先端の絶縁部を10mm位はがし、芯線がバラけないように手でしっかりとよりを掛ける。
- 2) スピーカ端子のツマミを下に押し、図のように端子穴にスピーカコードの芯線部分を差し込みむ。
- 3) 確実にスピーカコードが固定されたか、コードを軽く引っ張って抜けないことを確認する。





【接続手順】

- ① メインスピーカをアンプのスピーカ出力端子A(または1)に接続します。
- ② エフェクトスピーカをアンプのリア(またはサラウンド)スピーカ出力端子に接続します。
- ③ センタースピーカをアンプのセンタースピーカ出力端子に接続します。
- ④ 付属のRCAピンコードを使って、アンプのサブウーファ出力端子とスーパーウーファ(YST-SW45)の入力2(左/モノ)端子を接続します。
スーパーウーファ(YST-SW45)は付属のスピーカコードを使ってアンプと接続することもできます。
接続方法は10ページの接続2あるいは11ページの接続3をご覧ください。
- ⑤ スーパーウーファ(YST-SW45)の電源プラグを家庭用ACコンセントに接続します。

接続2

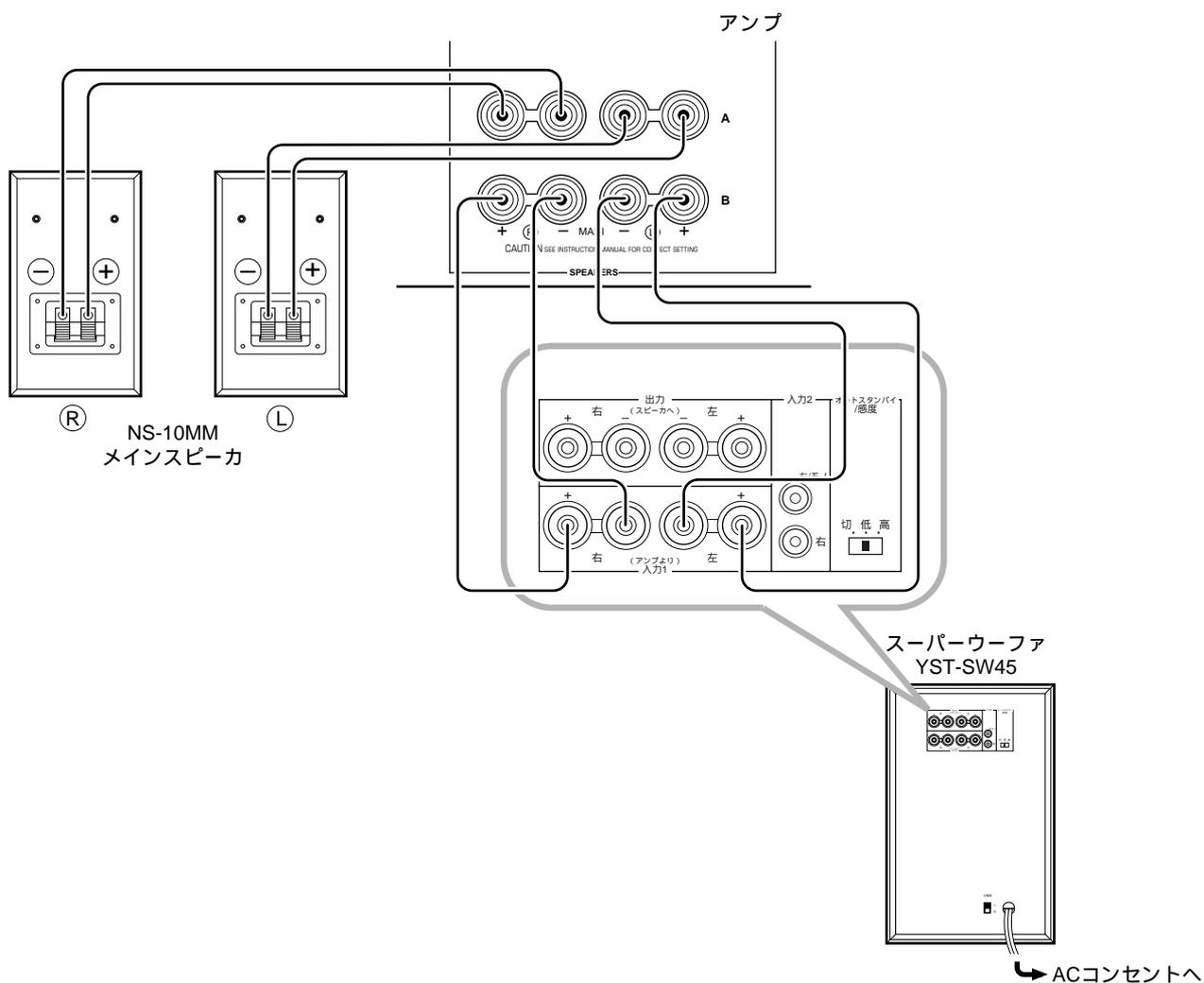
アンプにスピーカ出力端子がA + Bがある場合

下図は、アンプにメインスピーカ出力端子がA(または1) \ B(または2)の2系統あり、A + B(または1 + 2)などのスピーカ切替で両方の端子から出力できるアンプを例に説明しています。

メインスピーカ出力端子が1系統または2系統あっても両方から同時に出力できない(A + Bがない)場合は「接続3」をご覧ください。

【接続手順】

- ① メインスピーカ(NS-10MM)をアンプのスピーカ出力端子A(または1)に接続します。
- ② アンプのスピーカ出力端子B(または2)とスーパーウーファ(YST-SW45)の入力1端子を接続します。
- ③ エフェクトスピーカ(NS-10MM) \ センタースピーカ(NS-10MM)の接続は「接続1」と同じです。
- ④ スーパーウーファ(YST-SW45)の電源プラグを家庭用ACコンセントに接続します。



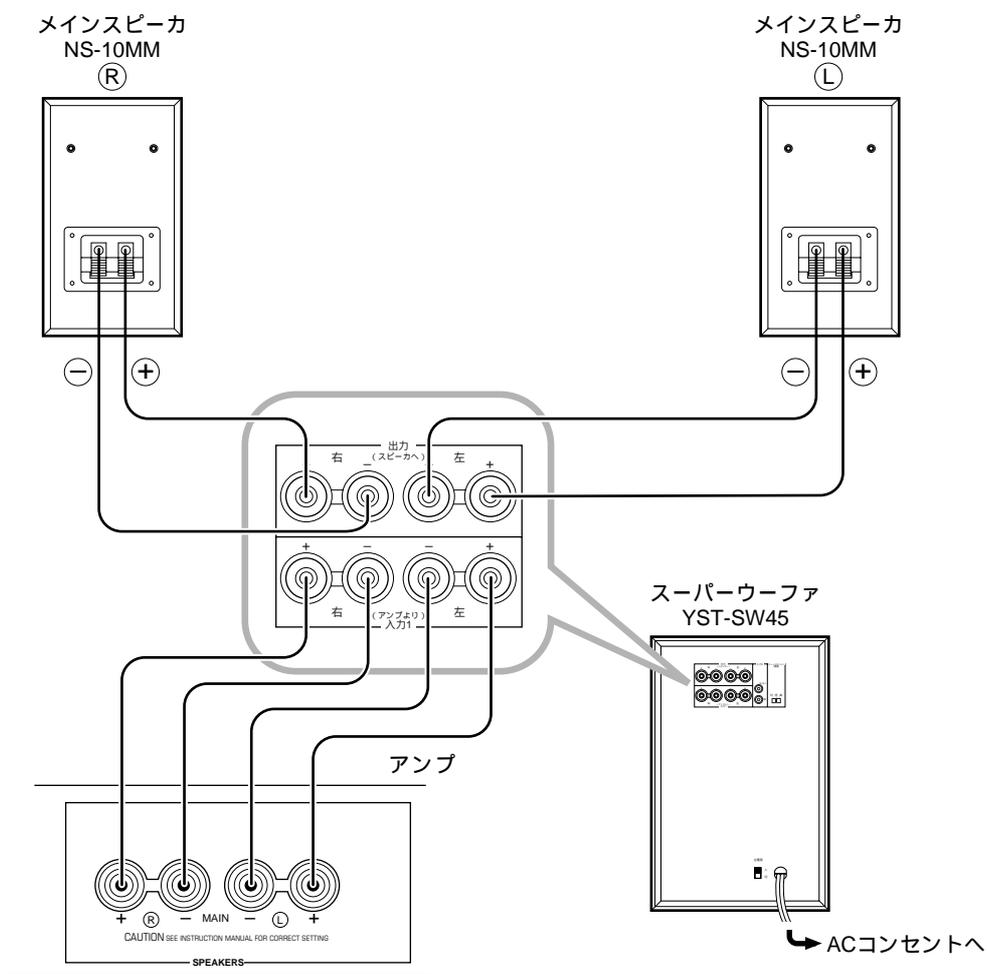
接続3

アンプにスピーカ出力端子が1系統、または2系統あってもA+Bがない場合

アンプにメインスピーカの出力が1系統、または2系統あっても両方から同時に出力できない(A+Bがない)場合は下図のようにメインスピーカをスーパーウーファ経由で接続します。

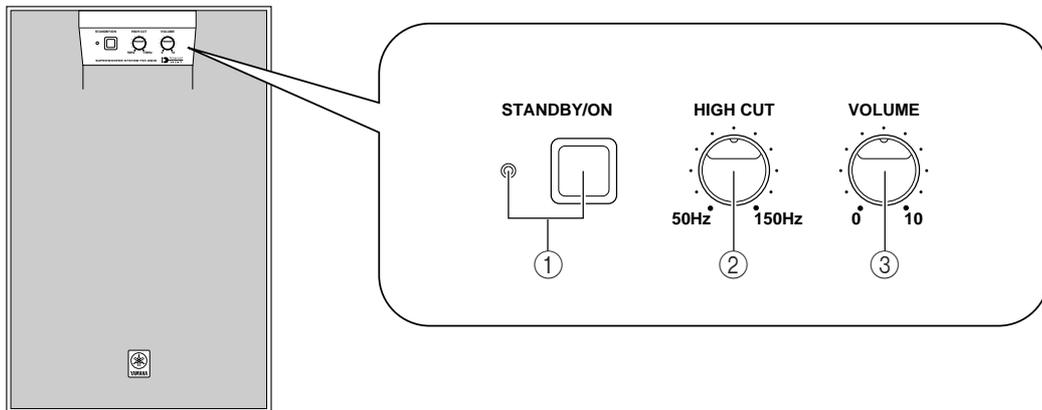
【接続手順】

- ① アンプのスピーカ出力端子とスーパーウーファ(YST-SW45)の入力1端子を接続します。
- ② スーパーウーファ(YST-SW45)の出力端子にメインスピーカ(NS-10MM)を接続します。
- ③ エフェクトスピーカ(NS-10MM)、センタースピーカ(NS-10MM)の接続は「接続1」と同じです。
- ④ スーパーウーファ(YST-SW45)の電源プラグを家庭用ACコンセントに接続します。

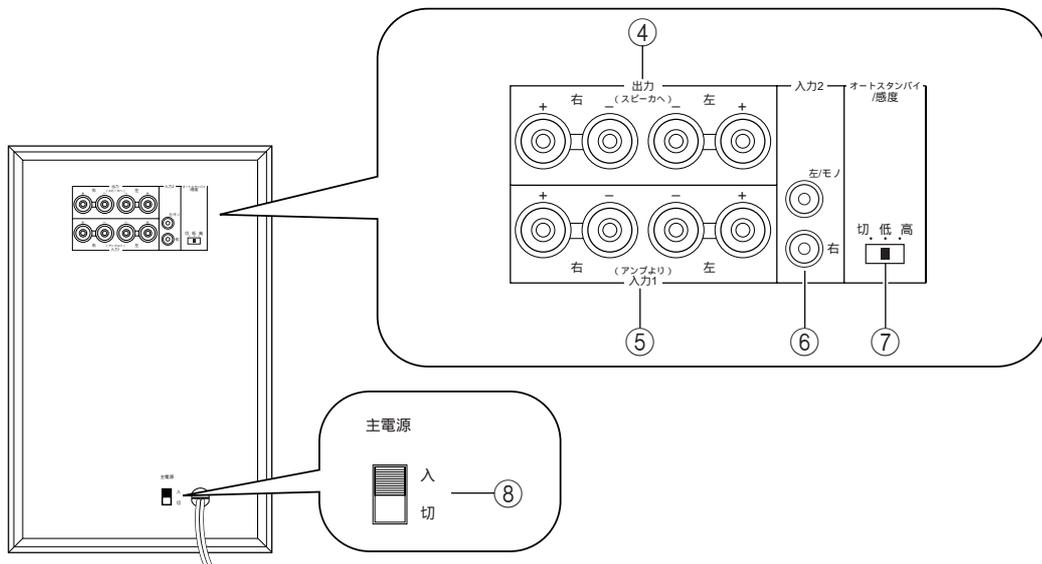


各部の名称とはたらき(YST-SW45)

フロントパネル



リアパネル



- ① スタンバイ / オンスイッチ(STANDBY/ON)
スイッチを押すと、インジケータが点灯し、電源が入ります。スイッチをもう一度押すと、電源が切れます。
- ② ハイカット周波数ツマミ(HIGH CUT)
カットする高域の周波数を調節するツマミです。組み合わせるスピーカや好みに合わせて調節します。
- ③ 音量ツマミ(VOLUME)
本機の音量を調節するツマミです。
右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。
- ④ スピーカ出力端子(出力)
スピーカ入力端子(入力1) からの信号をそのまま出力します。メインスピーカを接続する端子です。
- ⑤ スピーカ入力端子(入力1)
アンプのスピーカ出力からの信号を入力する端子です。
- ⑥ ピン入力端子(入力2)
アンプのライン出力(PRE OUT等)からの信号を入力する端子です。
- ⑦ オートスタンバイ / 感度スイッチ
オートスタンバイ機能が動作するある一定の信号レベルを設定するスイッチです。
オートスタンバイ機能がはたらいているときは、イン

ジケータが暗くなります。暗くならない場合は、このオートスタンバイ / 感度スイッチが「切」になっています。オートスタンバイ機能はSTANDBY/ONスイッチ が「オン」になっているときにはたきません。スイッチの切り替えは、必ずSTANDBY/ONスイッチ で電源を切った状態で行ってください。オートスタンバイ機能は、アンプからの信号を検出すると、自動的に電源が入る機能です。また、約10分以上音が出ていない状態が続くと、自動的に電源が切れます。通常はオートスタンバイ / 感度スイッチは「低」の位置で使用しますが、電源のオン / オフがしにくい場合は、「高」に切り替えてみてください。「高」にしても改善されない場合は、アンプ側の出力レベルを少し上げてみてください。

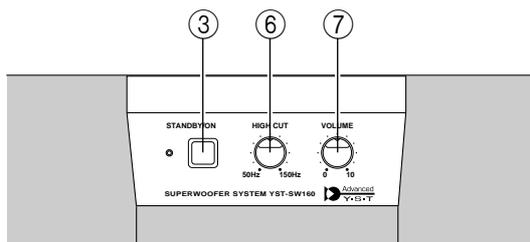
使用環境によっては周辺機器からノイズなどの影響を受け、オートスタンバイ機能がはたらいてしまうことがあります。そのようなときは、オートスタンバイ感度スイッチは「切」にしてSTANDBY/ONスイッチ でオン / オフしてください。

- ⑧ 主電源スイッチ
通常は「入」にしてお使いください。しばらくの間使用しない場合は「切」にしてください。

音量バランスの調節

効果的な低音域再生をするためには、組み合わせるスピーカ(メイン)とスーパーウーファの音が自然につながるように音量バランスを調節する必要があります。接続完了後、HIGH CUT、VOLUMEの調節を行ってください。

一度バランス調節をした後は、アンプ側の音量調節だけで、全体の音量調節ができます。



【調節手順】

① アンプの音量を最小にし、アンプおよび各機器の電源を入れます。

② 本機リアパネルの主電源スイッチを「入」にします。

主電源



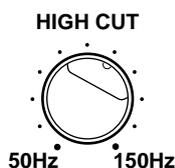
③ スタンバイスイッチを押しオンにします。

④ 低音を含んでいるソースを再生します。

⑤ メインスピーカの音量をアンプで調節します。通常お聴きになる音量にします。

(トーンコントロールなどは、一旦フラットにしてください。)

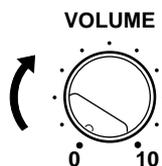
⑥ ハイカット周波数(HIGH CUT)ツマミを110Hzにします。



1目盛りは10Hzきざみになっています。

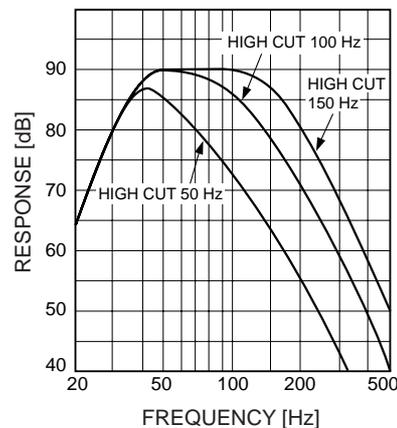
⑦ 本機の音量(VOLUME)を徐々に上げていき、メインスピーカとの音量バランスをとります。

スーパーウーファがないときよりも若干低音が聴こえるくらいにします。

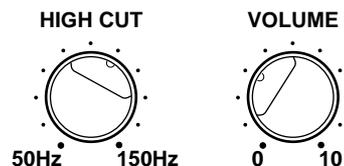
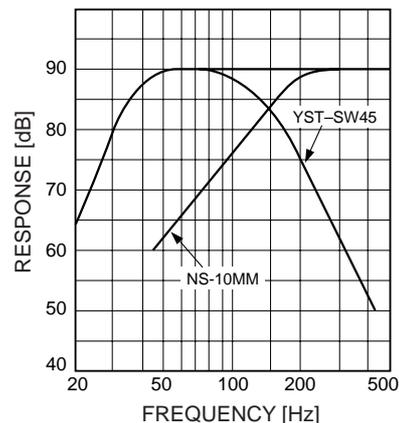


【周波数特性】

YST-SW45



NS-10MM + YST-SW45



ご注意

アンプのトーンコントロール(BASS, TREBLEなど)やイコライザーを最大にして大出力でご使用になったり、市販のテストディスクなどに入っている20Hz~50Hzのサイン波や特殊な音(電子楽器、レコードプレーヤの針先のショック音、低音が異常に強調された音など)を連続して大出力で加えることは、スピーカの破損の原因となりますので絶対に行わないでください。また、低音が異常に強調された特殊なディスクでは、本来の音以外に異音が発生する場合があります。これは、スピーカユニット自身の限界を越えた「バタ付き」現象で故障ではありません。そのようなときは、音量を下げてご使用ください。

故障かなと思ったら

下の表にしたがってもう一度確かめてみてください。そのうえで正常に動作しないあるいは下記以外の何か異常が認められる場合は、YST-SW45の電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお問い合わせの上サービスをご依頼ください。

症 状	原 因	処 置
YST-SW45の電源が入らない。	電源プラグがコンセントから抜けている。 YST-SW45の主電源が入っていない。	電源プラグをコンセントに差し込む。 主電源を「入」にする。
オートスタンバイ機能が働かない	オートスタンバイ感度スイッチが「切」になっている。 アンプからの入力信号が小さすぎる。	オートスタンバイ感度スイッチを「低」または「高」にする。 アンプやアンプに接続した機器の音量を上げる。
音がでない。	接続が正しくされていない。または接触が不完全。 YST-SW45のボリュームが最小(0)になっている。 アンプからの入力信号が小さすぎる。	接続を確認する。または別のコードを使ってみる。 ボリュームを右に回して音量を上げる。 アンプやアンプに接続した機器の音量を上げる。
音が割れる。	入力信号が大きすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を下げる。
音が小さい。	スピーカコードの接続が逆相になっている。	L、R、+、- の接続を確認する。
低音が出ない。または小さい。	低音域が少ないソースを再生している。 定在波の影響を受けている。	低音域の入っているソースを再生する。 YST-SW45の設置位置や視聴ポジションを変えてみる。

仕様

メインスピーカ、センタースピーカ、エフェクトスピーカ(NS-10MM)

タイプ	2ウェイコーステック型
スピーカユニット ウーファ ツイータ	防磁型 9cmコーン型 2.5cm
入力端子	プッシュ型
再生周波数帯域	100Hz~20kHz
インピーダンス	6
許容入力	40W
最大入力	100W
クロスオーバー周波数	5kHz
出力音圧レベル	88dB/2.83V、1m
外形寸法 (幅×高さ×奥行き)	107×191×140mm
重量	1.5kg
付属品	スピーカコード 10m×5 スピーカブラケット(取付金具)×6 パインド小ネジ×10 スペーサー(防振用)×12 マジックテープ×4

スーパーウーファ(YST-SW45)

タイプ	アドバンスド・アクティブ・サーボ・テクノロジー方式スーパーウーファ
スピーカユニット	20cmコーン(JA2161)防磁型×1
アンプ出力	70W/5
カットオフ周波数	50Hz~150Hz可変(-24dB/oct)
再生周波数帯域	30Hz~200Hz
定格電源電圧	AC100V, 50/60Hz
定格消費電力	40W
外形寸法 (幅×高さ×奥行き)	235×365×318mm
重量	9kg
付属品	スピーカコード(4m)×2 RCAピンコード(3m)×1 パッド×4

* 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会
「音のエチケット」
キャンペーンのシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮(おもしろいやり)を十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には特に気を配りましょう。窓を締めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は、通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

お客様ご相談センター

(ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口)

TEL(03)5488-5500

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部 Te(053)460-3451

品質保証室 Te(053)460-3405

住所および電話番号は変更になることがあります。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持込窓口

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50

ヤマハセンター内

Te(011)512-6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7

仙台卸商共同配送センター3F

Te(022)236-0249

首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184

Te(044)434-3100

東京 (お持込修理のみお取扱い)

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

Te(03)5488-6625

浜松 〒435-0048 浜松市上西町911

ヤマハ(株)宮竹工場内

Te(053)465-6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2

ヤマハ(株)名古屋流通センター3F

Te(052)652-2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-1-6

ヤマハ(株)千里丘センター内

Te(06)877-5262

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7

(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内

Te(087)822-3045

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14

Te(082)874-3787

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4

Te(092)472-2134

愛情点検



永年ご使用の本機の点検を!

こんな症状はありませんか?

電源コード・プラグが異常に熱い。
コゲくさい臭いがする。
電源コードに深いキズか変形がある。
製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
電源を入れても正常に作動しない。
その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。